



福島イノベ機構が実施する取組の進捗について

2022年6月7日

公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
事務局長 紺野 貴史

1. 福島イノベ機構の取組 全体像
2. 産業集積
3. 教育・人材育成
4. 交流人口の拡大
5. 拠点施設の管理運営
6. 情報発信

1. 福島イノベ機構の取組 全体像

- 福島イノベ機構は、**福島イノベーション・コースト構想の中核的な推進機関**として、2017年7月に福島県が設立。
- 以下の5本柱で、県からの受託・補助事業（2022年度は約32億円）を中心にソフト面の取組を展開。

① 産業集積

企業誘致、実用化開発や事業化の支援、ビジネスマッチングイベントの開催など、産業集積を促進する取組を実施。



ビジネス交流会



企業立地セミナー

② 教育・人材育成

浜通り地域等での大学等の教育研究活動や、初等中等教育でのイノベーション人材育成を支援。



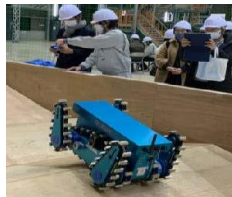
大学と地域の連携
(東京大学×新地町)



ICTを活用した水田管理実習
(相馬農業高校)

③ 交流人口の拡大

拠点の活用や地域の新たな魅力創造など、交流人口の拡大に向けた取組を実施。



拠点の視察ツアー(楢葉町)



拠点の視察ツアー(川俣町)

④ 拠点施設の管理運営

イノベ構想の各拠点について、運営を受託。拠点の利活用について県内外にPR。



福島ロボットテストフィールド



東日本大震災・原子力災害伝承館

ふくしま12市町村移住支援センターの運営

12市町村の移住施策の支援と移住・定住の促進に向けた課題解決に取り組む。



情報発信ポータルサイト



総理との車座(センター長出席)

⑤ 情報発信

シンポジウムの開催など、総合的な情報発信を推進。



シンポジウム



イノベ機構のSNS

● 県外企業等の浜通り地域等への企業立地を目的として、産業ポテンシャルや各種優遇制度等を紹介するセミナー、産業団地を巡る現地見学ツアー、および個別現地案内等を実施。

セミナー

企業立地セミナー



- 企業立地セミナー in 東京 (2021.11.26、大手町プレイス)
- ※会場参加84社110名
+リモート参加20社31名
- 新システムによるフォローアップ

訪問説明

各社を個別に訪問し産業団地進出に係る状況説明



現地見学ツアー、プロモーション動画

現地見学ツアー

- 第1回 現地見学ツアー (2021.11.9~10)
- ※参加企業7社10名



※産業団地見学の様子(復興工業団地)

プロモーション動画

○浜通り地域等産業団地プロモーション動画

15の市町村長に取材、福島イノベーション・コースト構想ウェブサイトにて公開。



企業立地ガイド 福島イノベーション・コースト構想地域

個別現地案内等

個別現地案内

- 2021年度 13社33名を案内



2021年度
 ・立地協定締結 7件
 ・立地補助金申請・採択 7件

2018年度～2021年度
 ・立地協定締結 計19件

立地協定締結・補助金等活用

立地



※ 立地協定締結7件、立地補助金申請・採択7件

2021年6月
合同会社良品店 × 富岡町



- 本社：福島県
- 「縦ログ・パネルログ構法」の生産・加工
- 2022年6月
操業開始予定

2021年6月
(株)木村管工 × 富岡町



- 本社：福島県
- 復興関連事業製品の製造・金属加工
- 2023年2月
操業開始予定

2021年8月
福島パルムシー(株) × 葛尾村



- 本社：福島県
- 木質チップペレット加工工場
- 2023年4月
操業開始予定

2021年8月
曾澤高圧コンクリート(株) × 浪江町



- 本社：北海道
- 自社の新事業研究開発型生産拠点
- 2023年4月
操業開始予定

※立地協定締結7件、立地補助金申請・採択7件

2021年10月
(株)バイオプラスジーン福島 × 浪江町



- 本社:福島県
- バイオプラスチック「ライスジーン」製造工場
- 2022年11月
操業開始予定

2022年1月
(株)井出自動車整備工場 × 富岡町



- 本社:福島県
- 自動車及び建設機械類の整備
- 2023年3月
操業開始予定

2022年1月
(株)池内商店 × 富岡町



- 本社:兵庫県
- 断熱耐火パネル製造
・板金材料加工
- 2022年12月
操業開始予定

※立地補助金採択 (7件)

- ・(株)石田金型製作所 (南相馬市)
- ・(株)宮田運輸 (富岡町)
- ・大橋機産(株) (川内村)
- ・(株)千賀屋 (大熊町) ※先方都合で辞退。
- ・イガラシ綜業(株) (浪江町)
- ・かもめミライ水産(株) (浪江町)
- ・(株)ポート (富岡町)

2. 産業集積（②事業化支援）

- これまで「イノベ実用化補助金」（2016年度～）に採択された**158社/171テーマ**（2021年度末時点）**を対象に訪問等を行い**、個々の事業者が抱えている課題解決のための支援を実施している。

- 市場調査、技術面での課題解決や販路開拓に向けたマッチング、販売戦略の策定、資金調達に向けたアドバイスなど、課題に応じて、具体的な支援を実施。

訪問等 延べ310回

事業化に至った事例

19件（累計82件）

販売戦略策定に向けた関係者とのマッチング支援の様子（2020.5）



知財戦略支援

- 事業化支援により、知財課題等を把握した24社に対し、弁理士による専門的支援を実施。

区分	件数	＜主な支援内容＞
基礎支援	7件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現状分析レポートの作成
事業化支援	24件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 先行技術調査、先行文献調査、特許性調査 ✓ 特許出願（代理人業務） ✓ 商標調査 ✓ 商標出願（代理人業務）

特許出願 8社8件

商標出願 1社1件

特許取得 2社2件

商標取得 1社1件

商流加速化支援（2021年度新規）

- 実用化が完了し事業化（＝商談を開始）したものの、販売に至っていない事例が多いため、**販売実績向上に向けた支援**を実施。

＜支援メニュー/実績＞

- カタログ**（45件）**・製品PR動画**（20件）**の作成支援
- マッチングセミナーの開催・・・**2回**
 - ✓ 県内の見込み顧客へのPR機会、タッチポイントの提供
- 首都圏商談会出展への支援・・・**3回（13社出展）**
 - ✓ 商談会用ブースを機構で確保し、支援先企業に提供
- 営業力強化研修の実施・・・**10回**
 - ✓ 10社に対し個社別にオンライン研修を実施中（8月16日～9月末）

イノベ企業オンライン説明会の開催

- 県内外の大学生に、イノベ地域の企業を知ってもらう機会として、イノベ企業オンライン説明会を開催。
- 地域復興実用化開発促進事業の採択企業のうち、工学系の学生の採用に興味のある企業 5 社より事業内容や業務内容を紹介。
- 好評につき、令和4年度も開催を予定。(時期は未定)

【開催概要】

(開催日) 令和4年2月25日 (金)

(場 所) オンライン

(参加者) 37名

(成 果)

アンケートをとったところ、参加企業のより詳細な情報を入手したい、採用選考にエントリーしたい企業があった、などの回答があり、参加者に参加企業を印象づけることができた。

参加企業

01 クフウシャ

<https://www.kufusha.com>

まだ世の中に存在しない、自律移動ロボットの試作開発や生産を行っています。



04 リビングロボット

<https://livingrobot.co.jp/>

「人に寄り添い、人と共に成長し、人と共に生きるロボット」の開発を通じて、社会的な課題を解決し貢献することを目指しています。



02 東日本計算センター

<https://www.eac-inc.co.jp>

ドローンによるソリューション、制御系、ICTサービスに至る広範囲な開発技術を通じて、付加価値の提供を行っています。



05 テトラ・アビエーション

<https://www.tetra-aviation.com/>

「空飛ぶクルマ」と呼ばれる垂直離着陸航空機 (eVTOL) の開発を行っています。



03 タジマモーターコーポレーション

<https://www.tajima-motor.com>

レース用のコンパクトカーや新規機種の開発ノウハウを活かし、超小型EVモビリティの開発を推進しています。



福島イノベ企業合同プレス発表会の開催

- 地域復興実用化開発促進事業の採択企業や、当機構の知財支援を受けた企業のプロジェクトに係る実用化や事業化、特許出願/取得などの成果を広く周知するため、令和4年度より開催。
- 報道機関を招いて成果を発表するとともに、プレゼン後に交流会を開催。
- 第1回は5月11日（水）に開催。年2回程度の開催を計画しており、今年度は年度後半に再度開催する予定。

【開催概要】

(開催日) 令和4年5月11日（水）
(場所) 福島イノベ機構大会議室
(プレゼン企業) ※五十音順

- ・ 株式会社クフウシヤ
- ・ 株式会社人機一体
- ・ トレ食株式会社
- ・ マッハコーポレーション株式会社



○ 参加報道機関

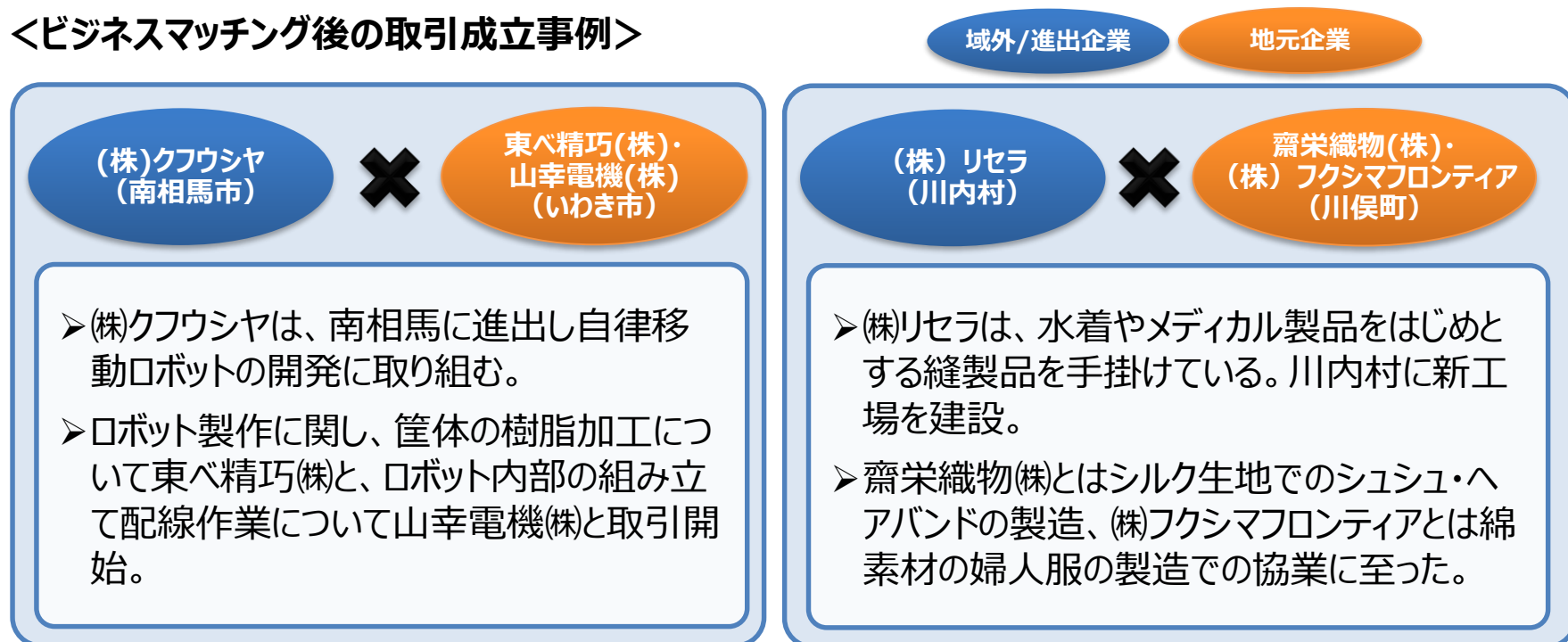
福島民報、福島民友、河北新報、日経、読売
日刊工、横浜FM

○ 掲載実績

福島民報、福島民友、河北新報、日刊工

- 地元企業が、域外から進出した企業から製造委託を受けるなどの動きも進みつつある。イノベ構想による経済効果を、地元企業へと更に拡大していくことが必要。
- 地元企業の構想へのいっそうの参画や、地元への経済効果の更なる波及に向け、地元企業と進出企業とのマッチング支援を実施（例：地元企業と進出企業とのビジネスマッチング交流会開催等）。
- これまで累計で、211件の企業同士の面談と32件の取引成立を実現（2018～2021年度）

<ビジネスマッチング後の取引成立事例>



進出企業と地元企業とのマッチングに係る更なる取組

- 令和4年度より、進出企業に対し調達ニーズ等についてアンケートを行い、把握した調達ニーズを随時、県内の企業に繋ぐ『**イノベ地域ネットワーク推進事業**』を開始。
- 調達ニーズを福島イノベ機構HPに掲載するとともに、**イノベ倶楽部事務局**や各地の産業支援機関を通じて、県内の企業に調達ニーズをお知らせします。
- 進出企業の意向を確認のうえ、面会の機会を設定、提供します。

<イノベ地域ネットワーク推進事業スキーム>



現在、進出側の企業に対するアンケートを実施中。アンケート結果に基づき順次、調整を進めて行く予定。

2. 産業集積 (④起業支援)

- 新たなプレーヤーを呼び込み、更なる産業の集積を図るため、2020年度より、起業・創業にチャレンジする企業等への支援「**Fukushima Tech Create**」(福島イノベーション創出プラットフォーム事業)を開始。
- 支援を行う中で、**他県からの参加者による拠点の開設、自治体への導入が決定している案件、地域の課題解決に向けた実証など**成果が出始めている。
- 本事業や広報活動の強化により、実用化開発を支援する「イノベ実用化補助金」の応募件数も増加(新規申請44件(2020年度) →55件(2021年度))。

○2021年度 F T C支援数33者(応募件数:全81件)
東北地域、首都圏からの応募に加え、福岡県、京都府など全国から応募あり。

○県外事業者による拠点開設件数・・1件
サステナブルエネルギー開発(株)

○事業化に至った(製品導入が決定)件数・・1件
(株)エムケー技研

○2021年度に新たに参画したF T Cサポーター
ニッセイ・キャピタル(VC)、イークラウド株式会社(株式投資型クラウドファンディング運営会社)、日本原子力研究開発機構(支援機関)、工業所有権情報・研修館(支援機関)

○ピッチイベント(2021.12.24)
※福島ロボットテストフィールドにおいて、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、人数を絞って開催。



支援先：(株)エムケー技研

プログラム名：ビジネスアイデア事業化PG (2020、2021年度支援)

- ・豪雨等における河川の水位予測を目的とした水位計を中心とする防災システムを開発。機器の購入を要しない安価なサービス提供を目指す。

- ・試作機の開発や自治体ヒアリング、契約書作成に関するF T C支援を経て、**田村市に2022年度から導入されている。**
(県内企業)



支援先：サステイナブルエネルギー開発(株)

プログラム名：アクセラレーションPG (2020年度支援)

- ・イノベ地域の間伐材や有機系廃棄物等を高温水処理後に炭化ペレット化し、石炭代替燃料として火力発電所に供給することを目指す。



- ・F T Cの支援を経て、**2021年度にイノベ実用化補助金に採択。**ペレットの生産体制を整備すべく、**南相馬市に実証拠点を開設。**(県外企業/宮城県)

支援先：チームAIBOD

プログラム名：ビジネスアイデア事業化PG (2021年度支援)

- ・画像識別による無人決済システムを開発中。
- ・F T Cでは、試作機の開発とニーズ調査を支援。

- ・イノベ地域内でのニーズヒアリングをもとに、**2022年度より大熊町インキュベーション施設に入居。実用化補助金にチャレンジ中。**
(県外企業/福岡県)



支援先：(株)SAGOJO

プログラム名：地域未来実現PG (2020、2021年度支援)

- ・イノベ地域を学校と見立て、**地域課題を教材とした教育プログラムツアービジネス**を展開予定。



- ・**関係人口の拡大や担い手不足の解消を目指し、F T Cの支援により、「知る」「体験する」「考える」をコンセプトとした富岡町の漁業を考える実証ツアーを2021年度に実施。**(県外企業/東京都)

2. 産業集積（⑤廃炉関連産業マッチング支援）

- **地元企業が廃炉関連産業に参入** できるよう、ニーズ側(元請企業)とシーズ側(地元企業)をつなぐ**ワンストップ相談窓口**を東京電力HD（株）、（公社）福島相双復興推進機構と共同で設置・運営。2020年7月より運用を開始し、マッチング機会の提供など各種支援を実施している。
- **2021年度より以下の新たな取組を追加。**
 - ① **[交流会開催]** 東電・元請・地元企業の新たな関係構築のため交流会を開催。
 - ② **[技術支援]** 地元企業の技術力向上に向けた支援を実施。
 - ③ **[資格取得支援]** 廃炉事業に必要な資格取得に係る費用の一部補助を開始。

「福島廃炉関連産業マッチングサポート事務局」の活動内容

■ 電話ヒアリング、企業訪問

- 登録企業数：156社



集団マッチング会

■ マッチング成約数

- 集団マッチング：2件
- 個別マッチング：204件

累計206件



■ 廃炉スタディーツアー

- 参加者数：11社11名
 - ・第1回 10月27日（11社11名）
 - ・第2回 2022年1月下旬実施予定→中止

■ 廃炉関連産業交流会

第1回（10月11日）

- 元請企業：7社
- 県内企業：39社



第2回（3月1日オンライン開催）

- 元請企業：13社
- 県内企業：17社

■ 廃炉関連分野の技術力向上を目指す対応

- 対応企業 8社

■ 公認資格取得に対する補助

- 16社に対し補助を実施

2. 産業集積 (⑥農業参入支援)

● 営農再開に向けて担い手が不足する中、大規模化・効率化を図るため、市町村や関係機関と連携し、企業の農業参入を支援している。

<2020年度の活動>

- 新規先ヒアリング 14社
- 現地案内:8社/13回
- 企業現地ツアー中止
- 市町村職員研修19名

<2021年度の活動>

- 24社
- 10社/12回
- 4社7名
- 35名



○その他：20年度まで県が開催していた企業参入セミナーと企業参入相談会をイノベ+県で共催として実施。セミナー62名
相談会2回14社

<2020年度の企業参入実績 = 3社>

- ・twin village (株)
本社: いわき市 (農業関連企業)
富岡町で小麦および水稻を作付
- ・(有) 青高ファーム
本社: 群馬県 (農業関連企業)
浪江町でネギを作付
- ・(株) 群馬電機工業
本社: 群馬県 (電機関連企業)
浪江町でネギを作付

<2021年度の企業参入実績 = 2社>

- ・(株) CTIフロンティア
本社: 埼玉県 (農業関連企業)
相馬市でトウモロコシ試験栽培
- ・(株) スマートアグリ・リレーションズ
親会社は(株)バイオマスレジンHD(新潟県)
浪江町でライスレジン原料米を作付



現地案内 (新地町)



2. 産業集積（⑦福島ロボットテストフィールド）

- 南相馬市・浪江町に整備され、2020年3月に全面開所した「福島ロボットテストフィールド」を産業集積の核として、浜通り地域でのロボット・ドローン／空飛ぶクルマ等の実証実験や、関連企業の立地が活発化。



★World Robot Summit 2020



- 人間とロボットが共生し協働する世界の実現を念頭に、世界のロボットの叡智を集めて開催する競演会を愛知県と福島県で開催予定。
※コロナ禍の影響で延期（→2021年9～10月に開催）
- インフラ・災害対応分野の一部の競技について、福島ロボットテストフィールドで開催（2021/10/8～10）
- 「災害対応標準性能評価種目」→南相馬市ロボット産業協議会が2位、会津大学が3位入賞
- 「トンネル事故災害対応・復旧種目」→会津大学が3位入賞

■ 浜通り地域等でのロボット・ドローン等の実証実験の例

○実施主体（株）テラ・ラボ、テトラ・アビエーション（株）

- ・軽量で耐久性に富むほか、高温・低温・降水への耐性にも優れており、安定飛行が可能な固定翼無人機の飛行実証。（写真左上）
- ・米国の国際大会にて世界で唯一受賞した「tetra Mk-3E」の飛行実験をロボットテストフィールドの航空法をクリアした環境で研究開発。（写真右上）



○実施主体：（株）クフウシヤ

- 人々や障害物にぶつかることなく自律走行が可能で、タイル床などの不整地におけるバキューム清掃作業の生産性向上に貢献する「業務用ドライ掃除ロボット」の実用化開発を実施。南相馬市内のホテル（ラフィース）に導入。（写真右下）



＜浜通り地域等でのロボット事業者の集積の進展に向けた活用事例＞

RTF及び周辺地域での

活用事例数
799件

(2017年9月～2022年4月)

実証から集積へ

浜通り等への
ロボット関連新規進出
62者 (社・団体)

(東日本大震災以降)

すそ野広く地元へ波及

RTF来訪者数
65,800名

(2018年7月～2022年4月)



固定翼無人航空機の公開実証試験 (2019年5月 テラ・ラボ)



空飛ぶクルマ飛行試験 (2020年7月 テトラ・アビエーション)



ふくしま次世代航空戦略推進会議の設立 (2021年 9月)



南相馬ロボット産業協議会のロボ「MISORA」(2021年10月)
※WRS2020「災害対応標準性能評価チャレンジ」2位獲得

■ 福島ロボットテストフィールド入居企業が、浜通りの産業団地に新工場を建設する事例も増えてきている。
((株)テラ・ラボ、ロボコム・アンド・エフエイ・コム(株)、富士コンピュータ(株)、曾澤高圧コンクリート(株))

＜その他の活用事例＞

総務省消防庁
ドローン運用アドバイザー育成研修



提供：NEDO



29事業者が参画
ドローン運航管理システム
相互接続試験成功

自衛隊・災害ドローン訓練
北海道胆振東部地震で初投入



eロボティクス
高層気象観測ドローン
上空2000mまで上昇成功

産総研・ドローン落下試験



パシフィックコンサルタンツ
トンネル点検試験

- 福島イノベ構想の1つの代表的な事例。現地案内から始まり、補助金を使い、RTFで研究開発を実施。その後イノベ地域（南相馬市）に研究拠点をづくり、雇用も創出。

<株式会社テラ・ラボ>

TERRA LABO

2014年3月 設立（本社：愛知県春日井市）

2019年2月 現地見学ツアー参加

2019年2月 個別見学実施

2019年6月 イノベ実用化補助金 採択

2019年9月 **福島ロボットテストフィールド研究室**入居

2019年10月 企業立地補助金 採択

2020年7月 **南相馬市産業創造センター**（貸工場）入居

2020年9月 Fukushima Tech Create
アクセラレーションプログラム 採択

2021年2月 立地協定締結 ※**南相馬市復興工業団地**

2021年11月18日 工場竣工式



テラ・ラボ長距離無人航空機の研究拠点
“TERRA LABO Fukushima”



テラ・ラボHPより



製造格納庫
テラ・ラボHPより

◆ 2019年台風19号、2021年福島県沖地震後、南相馬上空から被災調査を実施し、南相馬市災害対策本部へ空撮データを提供

- 福島ロボットテストフィールドを核として、周辺地域に事業拡大する動きも出てきている。

富士コンピュータ（株）の浪江町進出

- 兵庫県に本社を置き、webシステムやソフトウェア開発等を主事業とする同社は、福島ロボットテストフィールドに入居し、介護用ロボットのコミュニケーション機能に関するAI開発を実施。
- 2021年5月に浪江町藤橋産業団地にAI介護ロボット工場・物販センターを整備し、事業拡大。
- 福島イノベ機構では同社に対して、開発段階における事業化支援や、企業立地に関するセミナー・現地ツアーを開催し、工業団地の紹介及び自治体とのマッチングを支援。



▲協定書を手にする森社長と吉田町長（2020年12月）



▲介護支援コミュニケーションロボット「ふくちゃん」約5千の言葉を認識

(株) World Link & Companyの双葉町進出

- 京都府に本社を置き、ドローン機体の修理、販売、導入支援等を主事業とする同社は、南相馬市産業創造センターに入居し、ドローンのメンテナンスに関する研究等を実施。
- 今後、双葉町中野地区復興産業拠点にドローンの保管・修理事業などの拠点を整備し、事業拡大をする予定。
- 福島イノベ機構では同社に対して、企業立地に関するセミナーや関連情報を提供し、県外からの参入支援を実施。



▲協定書を手にする伊澤町長と須田社長（2021年4月）



▲測量・点検用ドローンのメンテナンスをしている様子

(参考) 福島ロボットテストフィールドの管理・運営と関連産業の集積

(参考) 浜通り地域へのロボット関連産業の集積の状況 (2021年7月現在)

ドローン31社

IHI
 Realize your dreams
 DroneWorkSystem
 TEAD
 Technological Air Dream
 lwaya Giken.inc
 ASTOM R&D
 Winding FUKUSHIMA
 ALSOK
 DENSO
 Crafting the Core
 FPV Robotics Inc.
 M.D.B CORPORATION
 PRODRONE
 Revolutionary Drones for Professionals
 AIZAWA
 ADJ
 Aero Development Japan
 ENRI
 株式会社 eロボティクス福島
 nesi
 大和田測量設計
 JAPAN ENVIRONMENT RESEARCH CO., LTD.
 株式会社 日本環境調査研究所
 FUTABA.
 TERRA DRONE
 StratoBlue technology
 WorldLink & Company
 DFA
 Drone Future Aviation
 POST 日本郵便
 株式会社 東日本計算センター
 East Japan Accounting Center Co., Ltd.

固定翼3社

TERRA LABO
 SPACE ENTERTAINMENT LABORATORY
 FUJIKI YIMVAC

自動走行5社

ALPINE
 Driving Mobile Media Innovation
 NICHIE
 東北大学未来科学技術共同研究センター
 TAJIMA
 MOTOR CORPORATION
 SHINMEI
 NIZULAB
 In Advance. Knowledge for Humanity

災害対応・廃炉ロボ11社

会津大学
 JAEA
 MELTIN
 Your Robotics
 株式会社 タカワ精密
 TAKAWASEIMITU CO., LTD.
 Future Robotics Co.Ltd
 コーチャーロボティクス(株)
 International Rescue System
 国際レスキューシステム研究機構
 FUTABA ROBOT
 Halo,World!

産業・業務用ロボ7社

日本オートマチックマシン株式会社
 JAPAN AUTOMATIC MACHINE CO., LTD.
 製品川通信計装サービス
 株式会社 F-Design
 KUPUSHA
 DRBOT
 ROBOTCOM & FA.COM
 SuzukiDenki
 FMK

空飛ぶクルマ2社

SKYDRIVE
 teora

介護・リハビリ・コミュニケーション6社

WALK-MATE LAB
 Living Robot INNOPHYS
 SOCIAL ROBOTICS
 株式会社ヘルステクノロジー
 HEALTH TECHNOLOGY CO., LTD.
 富士コンピュータ株式会社

水中ロボ1社

Dive into frontier
 full depth

農業用ロボ2社

UNIRITA
 GINZA FARM

3. 教育・人材育成 (①高校・高等教育機関でのイノベ教育)

○トップリーダーの人材育成

2021年度 27回

- 磐城高校: イノベーション企業・研究所訪問研修
- 相馬高校: 高等研究機関によるイノベ出前講座
- 原町高校: 地域理解ワークショップ



磐城高校
事前課題に対し、訪問
企業にて解決策を発表



原町高校
学生が南相馬の良いところを調
べ、ディスカッションにより理解を深化

○農業・水産分野の人材育成

2021年度 101回

- 磐城農業高校: 環境調和型 室内及び壁面緑化の研究
- 相馬農業高校: AIを活用した「美味しさの見える化」講座
- 小名浜海星高校: 生分解プラスチックの研究



相馬農業高校
野菜画像をタブレットに読み込
み、AIが美味しさを見える化

○中通り・会津地域の 専門高校への展開



本宮高校
ドローン操作体験を実施

○工業分野の人材育成

2021年度 124回

(平工業高校、勿来工業高校、小高産業技術高校、川俣高校、テクノアカデミー、会津大学)



平工業高校
(株)リビングロボットから
講師を招き、ロボットの
仕組み等に関する講義
を実施



小高産業技術高校
(株)東日本計算センターか
ら講師を招き、ドローン制
御プログラミングやドロー
ン操縦体験を実施

●喜多方桐桜高校：

イノベ構想廃炉、医療関連分野の施設を見学

2021年11月18日福島県立喜多方桐桜高校の電気・電子科と機械科の生徒60名は、福島イノベーション・コースト構想関連施設である楢葉遠隔技術開発センター（楢葉町）とふくしま医療機器開発支援センター（郡山市）を見学した。



●磐城高校：企業訪問研修と報告会を実施

2021年11月26日、福島県立磐城高校の1年生7クラス280名が参加し、地元いわき市内14社への訪問研修を実施。その翌月の12月14日、各教室で「地域産業・技術の現場見学と報告会」を開催。企業・研究所の訪問研修時に、予め各社から課題の提示を受けており、報告会では、この課題の対処内容内容を小グループで検討し発表した。



●「未来のために『生分解』コンテスト」

(イノベ機構主催)

福島県立高校の8校から18チーム148名の生徒が、生分解性を持つプラスチックカップを7月～11月の間により早く分解することを競うコンテストに挑戦した。自然環境を損なうことがないよう、植物の栽培も併せて行い、日々の様子を実験ノートに記録し、その内容についても表彰対象とした。

【表彰式2021年12月】

生分解大賞は岩瀬農業高校3年生チームが受賞。学校の近くで生産されているキクラゲの廃菌床と鶏糞などを組み合わせ、温度を高く保つことにより、分解を進めた。

◇未来のために「生分解」コンテスト結果

生分解大賞

大賞 岩瀬農業高校 3年生チーム

植物栽培賞（植物の生育状況が優れていたチームを表彰）

大賞 相馬農業高校 3年生チーム

実験ノート賞（実験ノートの内容が優秀だったチームを表彰）

大賞 岩瀬農業高校 3年生チーム



イノベ教育を受けて生分解性プラスチックの実験を進める小名浜海星高校の生徒（福島中央テレビ：ふくしま未来ストーリー）

3. 教育・人材育成 (②大学等の教育研究活動への支援)

「復興知」による人材育成

1. 震災時、全国の大学（短大、高専を含む）が自発的に被災市町村で復興支援活動を実施。これらの活動を通じて復興に資する知見（復興知）が蓄積されている。
2. イノベ機構では、この「復興知」を生かし、浜通り地域等に**人材育成基盤を構築**する支援事業を2021年度から5カ年の事業として開始。
・公募により21件を採択。2021年度の補助金総額は4億500万円。

<2021年度採択大学の活動計画 例>

東京農業大学 (浪江町) **インターンシップ型農業・農村統合活性化戦略プログラム**

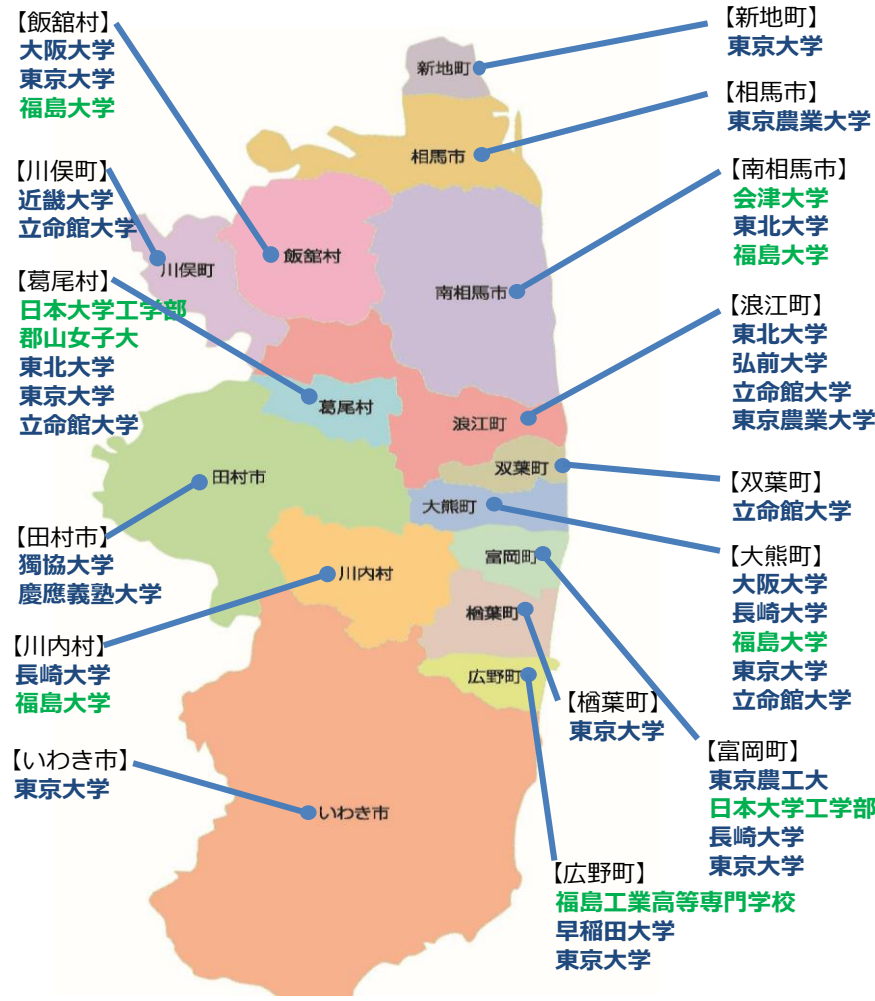
浪江町において就農拡大・スマート農業・6次産業化に向けた現地活動の実績から、昨年度には地域企業への就職者2名を輩出した。更なる移住・定住などの人材定着が課題であり、インターンシップ型の教育研究プログラムを実施。地域企業等との連携による各種の戦略的プロジェクトを展開し、農村地域全体の活性化に取り組む。

<採択大学等間の連携>

・**復興農学会**：福島大を事務局として、郡山女子大、福島高専、東京大、東北大、東京農工大、東京農大等が参加している。2021年6月26日に公開シンポジウムを開催、2022年1月31日には学会誌を発刊している。

・**鳥獣被害ネットワーク**：郡山市の日大工学部を事務局として福島大、東北大、東京農工大、東京農大、慶應義塾大、長崎大等に加え、環境省、福島県等の行政関係者とも連携。2022年2月8日に、「第2回 鳥獣被害対策シンポジウム」を開催し、深刻化する福島県浜通りの鳥獣被害、その実態解明と対策を探った。

※青文字：県外の大学



4. 交流人口の拡大

- 交流人口の拡大には、イノベ地域で活動するプレイヤーが主体となり、継続的に人を呼び込む仕組みを構築することが必要。そのためのコンテンツ開発を実施。
- 首都圏等の若者が、将来のイノベ地域を担う人材となりうるための接点づくりを目的に大学にて寄附講座を開設。福島県やイノベ構想についての理解促進を醸成。

○「ふくしまサイクルロゲイニング大会」

2021年11月27日開催

県内外から約130名のサイクリストが参加

【概要】

イノベ地域の施設や食堂等をチェックポイントに設定し、制限時間内に、どれだけ多くのチェックポイントを訪れることが出来るかを競いながらサイクリングを楽しむイベントを開催。



○「パレットキャンプ福島」

①2021年10月23～24日：16名

②2021年11月20～21日：16名

【概要】

イノベ地域に関心が高い若者、学生を対象に、まずは双葉町を知ってもらい、楽しんでもらうツアーを実施。早朝ヨガや参加者同士の交流を実施。



早朝ヨガの様子

○専修大学にて寄附講座を開設

- ・2021年4月～7月
全14回実施（対面7回、オンライン7回）
- ・2021年9月
寄付講座受講学生6名・教授1名が来福。
RTFや伝承館を視察

4. 交流人口の拡大

- 来訪者のニーズにあわせたオーダーメイドの視察に対応。
- いきなり来訪はハードルが高いと感じる若者に向けてバーチャルツアーコンテンツを開発・実施。

○バーチャルツアーの実施【2021年度 新規取組】

■ 首都圏の大学生を対象にバーチャルツアーを開催

[第1回] 2022年2月12日

- ・バーチャル視察先：福島ロボットテストフィールド
- ・参加者：13名



[第2回] 2022年2月16日

- ・バーチャル視察先：東日本大震災・原子力災害伝承館
- ・参加者：14名



○オーダーメイド視察対応

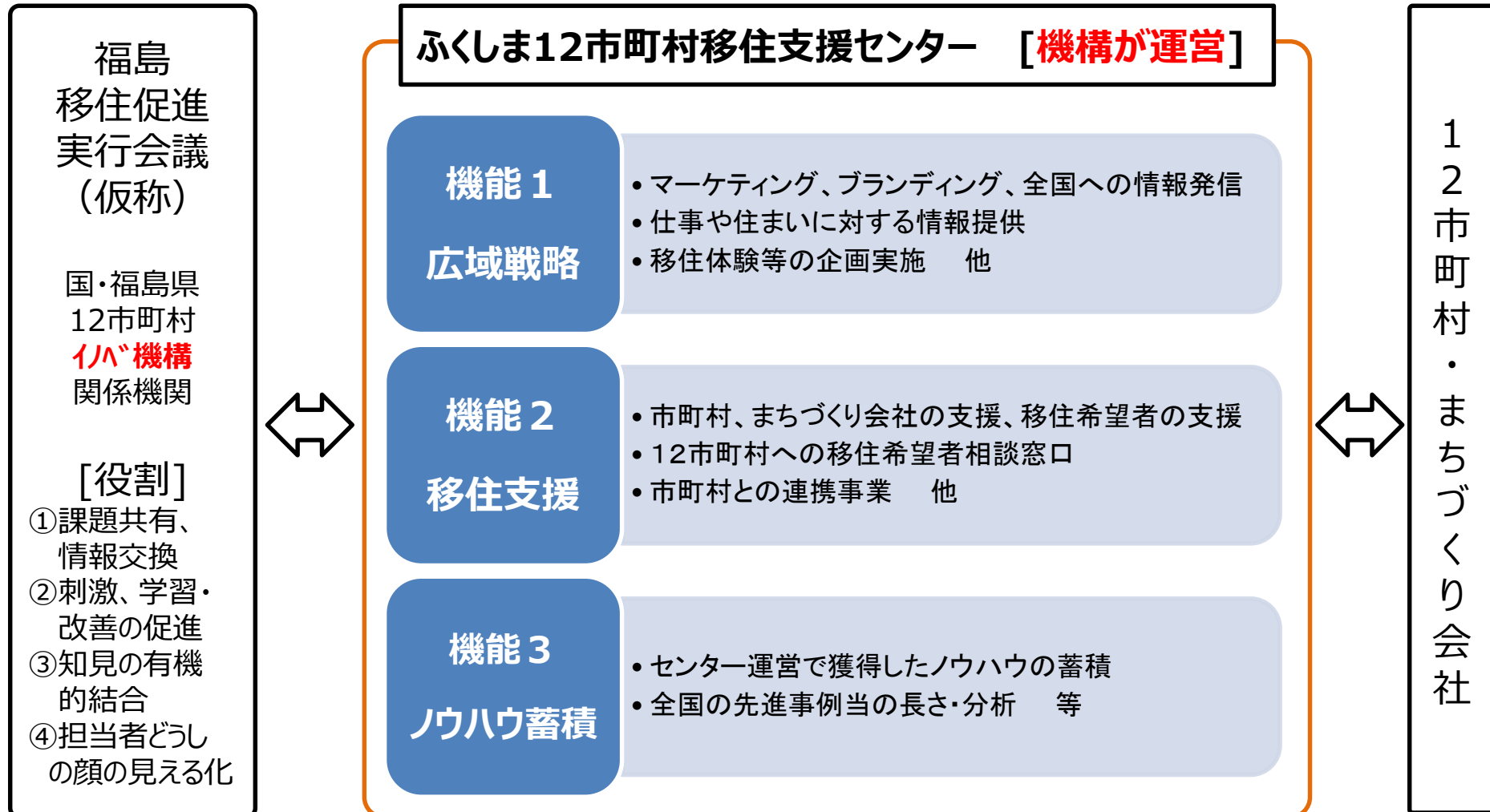
実施件数／人数
25件／474名 (ほか2件延期・10件中止)

<参考：内訳>

- 企業 16件
- 商工団体・金融機関 5件
- 教育・研究機関 2件
- 行政機関 9件
- その他 5件

4. 交流人口の拡大（ふくしま12市町村移住支援センターの運営）

- 12市町村への移住・定住を促進するため、広域連携が効果的な事業や12市町村による移住施策の支援等を行う「**ふくしま12市町村移住支援センター**」を福島県が設置し、福島イノベ機構が運営。





移住支援センターの取組①

- ・11月に移住ポータルサイトを立上げ、20-30代に集中して情報発信
- ・キャンペーン認知は、全世代で17%、特に20代で26%、30代で20%にまで上昇
- ・センター主催のセミナーや、現地ツアー、大型移住イベントへの出展等、リアルとオンライン両面で計9回開催
- ・その結果、移住希望者システムの登録者数が576名に拡大

情報発信

ふくしま12市町村移住ポータルサイト
未来 ワーク ふくしま



イベント・ツアー

未来
ワーク
ふくしま

ふくしま12市町村

地域の人・企業と
出会える移住体験ツアー
第1弾

ふくしま12市町村は、震災・原発事故で大きな被害に見舞われましたが、各地で復興が進み、新たな挑戦が少しずつ始まっています。ただ、地域再生にはまだまだ人の力が不足しています。あなたのその手でふくしまの再生を推し進めてもらえないでしょうか？まずは私たちの挑戦に触れていただけたらと思っています。そして私たちの仲間になってくれることを期待しています。

出会う人





移住支援センターの取組②

<移住体験ツアーの実施>

第1回：2021年12月25～26日

参加者 4名

飯舘村～川俣町～南相馬市



気まぐれ茶屋ちえこ（飯舘村）店から避難時、店の再開、客や地域住民との繋がりについて説明を受け、先輩移住者2名から活動の様子や地域住民との繋がりについての説明を受けた。



haccoba craft sake brewery（南相馬市小高区）工場兼飲食店にて経営者より設立趣旨説明、今後の展望等の説明を受けた。

第2回：2022年1月15～16日

参加者 9名

川内村～大熊町～広野町～楡葉町



かわうちワイン株式会社（川内村）にて、統括マネージャーより、移住のきっかけ、現地の状況及び事業の説明を受け、ワイン工場を見学した。



一般社団法人ならはみらい（楡葉町）移住促進担当者が町の現状・求人について説明、公営住宅棟や町の様子を徒歩にて案内した。



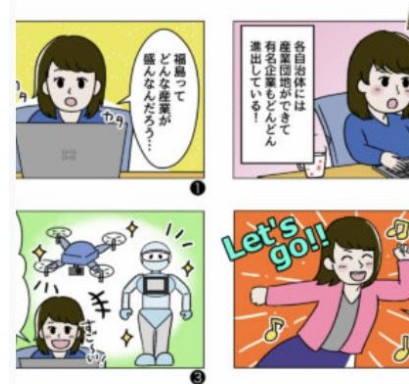
移住支援センターの取組③

- ・12市町村の企業172社にアプローチし、41社の求人をウェブサイトに掲載。応募者数336件、内定者数6名と実際の移住者の転職につなげた。また、全国6ヶ所での転職フェアに出展し、約300名の移住転職希望者を確保
- ・市町村主催のツアーやイベント情報を取材し、センターで発信

移住求人



市町村連携



その他記事

福島では今どんな産業が盛ん？
どんな仕事があるの？

2022年3月28日



チャレンジする人

次世代が「広野町に関わり続けたい」と思えるまちづくりで生まれ故郷に貢献したい

広野町

2022年3月28日



移住支援センターの取組④

- ・昨年度41社に加えて、今年度は移住者に魅力的な100社以上の求人を追加発掘
- ・今年度は重点3テーマを設定。「①先端産業」では、イノベ企業中心に技術者への発信強化「②一次産業」では、新規就農者が見るメディアと連携し情報提供。「③起業」では、地方での独立希望者向けに制度や地域ニーズを紹介

移住者向けの求人ページ



フシマン株式会社 福島工場

【正社員】 福島県での勤務/工作機械のオペレーション (経験者)



¥ 月給170,000円～320,000円

🕒 8:30～17:30(休憩65分)

応募画面へ進む
約1分でカンタン入力

就農希望者向けのイベント



5. 拠点施設の管理運営（伝承館）

- 複合災害の記録と教訓を収集・保存するとともに、調査・研究し、展示・研修を行う情報発信拠点「東日本大震災・原子力災害伝承館」を双葉町に整備。2020年9月20日オープン。
- なお、開館以来の累計入館者数は2022年3月14日、10万人達成。
- 福島イノベ機構では、同館の指定管理を2020年4月より受託（5年間）。



- 開館時間：9：00～17：00（最終入館16:30）
- 休館日：火曜日・年末年始（12/29～1/3）
- 入館料：大人 600円 小中高 300円
 大人団体（20名以上）480円 小中高団体(20名以上) 240円
 ※入館料は1名あたりの金額。教育活動での減免制度有。

複合災害を知る、学ぶ



展示コーナー

震災前から震災当時、現在を通じて、複合災害がもたらしたのものや、その後の復興の過程を学ぶことができます。

被災地へ行く、体感する



フィールドワーク

津波や原子力災害で被災した施設や復興の状況を見て、学ぶためのツアーを行います。(オプション)

複合災害の話を聞く、共感する



語り部講話

複合災害を経験した方々の生の声を聞き、当時の追体験ができます。

複合災害を考える、教訓を得る



研修プログラム

来館団体のニーズを踏まえ、震災・防災に関係した様々な研修を提供します。(オプション)

○来館者

県外からも多くの来館者を迎えた。具体的には東北地方、関東地方、関西地方、**北海道（北海道標津高等学校、函館白百合学園中学校）**や九州（**鹿児島県立鹿児島南高等学校**）など。

○一般研修（語り部、フィールドワーク等）の実施 計73回 3,531名学生40団体、一般33団体

開館以来、伝承館の常設展示に加え、「一般研修（語り部講話、フィールドワーク、ワークショップ）」を提供。

○専門研修（モニター）の実施

10/23 「放射線被ばくとリスクコミュニケーション」

高校生 27名参加

10/31 「放射線と原子力防災」

高校生 35名参加

11/20 「東日本大震災と原子力災害の伝承」

大学生等 27名参加

12/6 「震災関連学習の指導法研修」

県内教員 37名参加

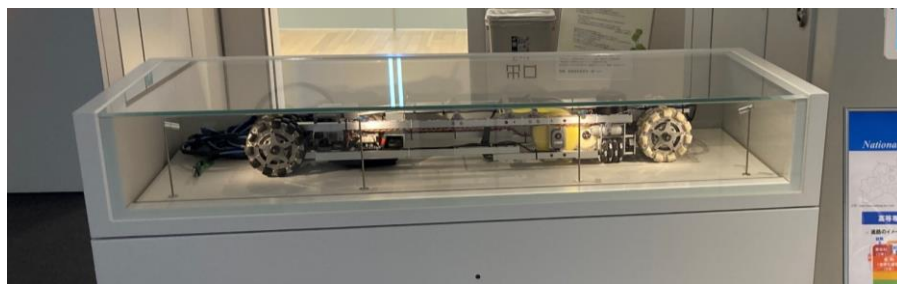


- 伝承館にて、展示内容の充実により、複合災害の記憶と記録を後世に伝えるとともに、復興に向け挑戦する福島県の姿を発信していくため、展示コーナーの一部を改修。
- 2022年2月23日より一般公開開始。

■「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会」座長として、構想研究会報告書を取りまとめた、赤羽一嘉・元国土交通大臣（元原子力災害現地対策本部長）による、当時の証言映像資料を追加。



■ 実物展示として、福島ロボットテストフィールドで飛行試験を繰り返したテトラ・アビエーション株式会社の「空飛ぶクルマ（Mk-3）」と第5回廃炉ロボコンで文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞した福島高専のロボット「メカリ」を追加。



福島高専の「メカリ」



テトラ・アビエーション(株)の空飛ぶクルマ

○秋田出張展示(2021.4.29~5.26)

イオン秋田中央店で写真展示。
伝承館として初めての県外での情報発信を行った。
来場者は約1000人。



○双葉町特集展(2021.7.14~8.30)

伝承館企画展示室にて双葉町資料を展示。
双葉町職員および学芸員による解説も実施。
また、期間中に映画上映会等も合わせて開催した。
特集展の来場者は約6000人。



○「絵本から学ぶ 子どもに伝える大震災」 (2021.10.9~11.8)

東日本大震災や原子力災害に関する絵本をテーマにした企画展を伝承館2階企画展示室で実施。
約140冊の震災関連の絵本を自由に読むことができ、また「ぼくのうまれたところ、ふくしま」「失われたバラ園」の原画も展示。



○長崎出張展示(2021.12.3~19)

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で
写真&実物資料を展示。また、語り部講演も実施。

- 企画展来場者は約680人
(資料館職員聞き取り、推定)
- 語り部講演参加者71名



○大熊町特集展(2021.3.4~5.9)

伝承館企画展示室にて大熊町資料を展示。
大熊町職員および「じじい部隊」による解説も実施。



○セタイベント(2021.6.16～7.15)

双葉町両竹地区の竹を館内に設置。
来館者や双葉郡内の小中学生が記入した震災や復興への想い・願いについての短冊を飾った。



短冊には「誰もが帰りやすい町になりますように」といった小中学生の希望が記されました。

○特別対談 (2021.11.3) ※企画展と同時開催 「絵本で伝える大震災」

震災関連絵本の作者との特別対談を通じて、絵本の魅力、親子のコミュニケーションツールとしての役割、震災伝承における絵本の効果などについて意見交換。



- ・「ぼくのうまれたところ ふくしま」の著者・松野春野さん
- ・「失われたバラ園」の作家・はかた たんさん
- ・福島大学特任教授、うつくしま未来支援センター ども支援部門副部門長 本多環さん

○学芸員解説イベント(2021.8.14)

「親子で学ぶ・伝える東日本大震災・原子力災害」

クイズや展示物を実際に触ること等を通じて、小学校1年生及び4年生の参加者とその家族に、東日本大震災の全体像や原子力災害について学んでいただいた。



○伝承館イベント (2021.11.6)

「あの日からの経験をふくしまの未来へ」

震災の記憶や教訓、復興に向けた取り組みについて、さまざまな企画を通じて幅広い世代へ発信。



防災サイエンスショーの様子

6. 情報発信

● さらに県内外で広く構想の取組を知っていただくため、シンポジウム・セミナー等を実施。

<福島イノベーション・コースト構想シンポジウム>

■ テーマ：イノベ構想による持続的な挑戦グリーン社会の実現を目指して

約490名参加（オンライン含む）

(2021年12月11日)

会場:大熊町 linkる大熊

- 基調講演
- 取組紹介（5件）
- 活動報告（1件）
- トークセッション



基調講演：
東北大学大学院 教授 中田俊彦様



活動報告：小名浜海星高等学校



トークセッション

<情報発信>

- ・岸田総理大臣面会（斎藤理事長）
- ・土木学会シンポジウム（斎藤理事長）
- ・全国経済同友会（伊藤専務理事）
- ・福島ロータリー倶楽部（伊藤専務理事）
- ・福島県商工会議所連合会（伊藤専務理事）
- ・科学技術と経済の会（紺野事務局長）



- 福島イノベーション・コースト構想への認知度・理解度向上、参画の促進に向け、**構想ポータルサイト (Web)**、**SNS (Facebook, Instagram等)**、**YouTubeチャンネル等**にて発信。



チャンネル「[福島イノベ機構](#)」

■ 福島イノベ機構
公式SNS



○ 産業団地紹介

○ 企業紹介動画

○ 福島イノベ構想シンポジウム

○ Fukushima Tech Create
2021 スタートアップピッチ

○ 見える化セミナー



田村市産業団地紹介



福島イノベ構想シンポジウム



企業紹介



Fukushima Tech Create
スタートアップピッチ

などの動画を公開中

(カテゴリ別再生リストあり)



公益財団法人
福島イノベーション・コースト構想推進機構
〒960-8043
福島県福島市中町1-19 中町ビル6階

<お問合せ先>

Tel : 024-581-6894 (代表)

受付時間 9:00~17:00 (土日祝日・年末年始除く)

「福島イノベーション・コースト構想」のプロジェクトの状況や直近のトピックスを
ご覧いただけます。

公式Web



Instagram



Facebook



Hama Tech Channel



パンフレットは
こちら

